

圓福寺報



博多聖福寺、芙蓉庵細川白峰老大師ご染筆「円相に『日々は好日』」

圓福寺報 第七十四号
 平成三十一年一月一日発行
 発行者 臨濟宗妙心寺派 圓福寺
 千葉市稲毛区穴川町三七五 TEL (二五二) 九二八一
<http://www.chiba-enpukuji.com>
 E-mail: oshou@chiba-enpukuji.com

目次

新本堂誌上見学会	2
ほとけさんの心シリーズ(その二) 「文殊菩薩」 もんじゅぼさつ	6
「僧堂で何してる？」その五 ——修行道場の生活	10
三巡目第五回 四国あるき遍路の旅	12
三巡目第六回 四国あるき遍路の旅のご案内	17
第二十五回圓福寺寺子屋 「禅童会」	18
六川花園幼稚園 園だよりから 「『ことば』はツール？」	20
平成三十一年年忌表	21
写経会・土曜会	21
平成三十年下半年日録抄	22
平成三十一年行事予定	23
花園会新年会のご案内	24

新本堂誌上見学会



道路から見ると。山門の奥に本堂・庫裡が並んで見えています。

【右】山門をくぐって本堂までバリアフリーで行けます。
【下】庫裡玄関前をゆったり作り、以前本堂前にあった手水鉢を据えました。



【右】本堂正面から先に進んでいたと墓地に続く石段になります。【上】墓地に下りていく石段の方から庫裡玄関を見たところです。南に面していますので、冬のお墓参りの後は、ここでひなたぼっこでもいかがでしょうか。

本堂正面は濡れ縁風の石張りになっております。どうぞ一段上がってお参りください。以前と同じように、本堂正面はいつでも少し開けてありますので、中をご覧になることができます。



山門前には一段下がって駐車場がありますので、足の不自由な方がお墓参りされる時はこちらに駐車すると、お墓までバリアフリーで行くことができます。それ以外の方は、本堂にお参りしてからお墓参りをなさってください。

十二月十五日に、ようやく建物の引き渡しを終えました。早速、檀信徒の皆さんをお招きして見学会をと思いましたが、仏具の据え付けや備品の搬入、掃除、年末の支度などで時間が取れませんので、誌面でご案内させていただきます。

地獄極楽図より



【上】両開きの庫裡玄関を開けると、正面に韋駄天様が迎えてくれます。足が速くなりたい方はやり病になりたくない方など、どうぞお参りください。立派な厨子は、駒込の勝林寺さんのご寄進です。
 【左】韋駄天さんの右は隠寮という偉い和尚さんの控室への入口です。韋駄天さんの左側は、お正月に賀正達磨を飾ったりする床の間にもなるスペースとなります。



【上】隠寮入口から中廊下方向を見たところ。左から庫裡玄関・中廊下・中庭というように眺められます。中廊下の障子を開けると、本堂となります。
 【右】玄関ホールから東廊下を見ると、応接室、その先に書院入口の襖が見えます。左に中庭と、その先に茶室が見えるようになっています。



【右】十八畳と十五畳の二間続きの書院。仕切って使うこともできます。椅子席でも座卓でも使えます。ご法事の後の会食もここですることができます。本堂でお通夜をされた時には、ここに宿泊することもできます。写経会や土曜会、幼稚園のお茶のおけいこなど、いろいろな催しや活動に重宝な座敷です。
 【下】厨房機器メーカーのパンフレットではありません。圓福寺の新しい厨房です。ご法事のお膳の支度、お彼岸・お施餓鬼の建長汁を作ったり、禅堂会の食事、禅堂会のうどん作り、地藏盆・年越しまいり・土曜会の食事など大活躍する厨房です。業務用オーブンや業務用冷蔵庫・製氷機なども完備しています。



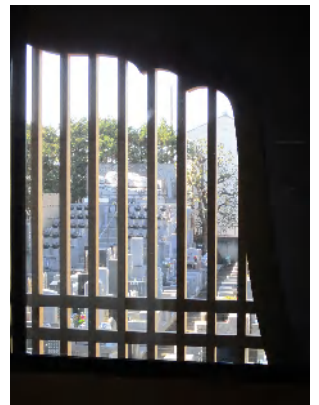
男女別トイレの間、厨子の中に不
 浄を浄化するトイレの仏様「鳥極沙
 摩明王」（うすさまみょうおう）を
 お祀りしています。下半身の病に靈
 験があるといわれもあり、信仰を
 集めている仏様です。天井左が明
 りなのは、天窓からの自然光です。



厨房前から西に向かつての長い廊下を「北廊下」といいます。この廊下
 の北側に、男女別トイレ、多目的トイレ、物置が並び、南側には茶室、本
 堂裏に壁面いつばいの収納棚が作りつけられています。暗いトンネルのよ
 うに見えますが、途中二か所の天窓があり、採光は十分です。正面突き当
 りに、西廊下の火頭窓が見えます。



【左】「鳥極沙摩明王」から振り
 返ると、本堂と中庭の中廊下
 です。左の中庭に、お茶の腰掛待
 合が見えます。右手の障子を開け
 ると本堂となります。左の上部壁
 面に、寄付者のご芳名板を掲示す
 る予定ですので、お寺においでに
 なった時に「ご覧ください」。



【上】西廊下の火頭窓の格子越し
 に、涅槃精舎を見ることができま
 す。【左】西廊下を北から見たと
 ころです。左手前は、納骨室の入口
 です。以前と同じように、ご遺骨
 の一時預かりはこちらでさせてい
 いただきます。



このページには廊下の写真が三枚も集
 まってしまいましたが、本堂を取り囲むよ
 うに中廊下【上の写真】、北廊下【右上の
 写真】、そして墓地に面した西廊下【右下
 の写真】となっていて、お彼岸やお施餓鬼
 といったお参りの方が本堂にたくさん
 いらっしゃるときも、人の動線を確保でき
 るように考えてあります。



【右】納骨堂の様子です。正面の厨子の中には、「文殊菩
 薩」をお祀りする予定で、納骨槽は、檜の無垢板を使い、
 宮大工さんが丁寧に作ってくださいました。
 正面に文殊菩薩を祀って、その前の和室から本堂に向けて
 の場所が、坐禅をする場所になる予定です。



【右】本堂内部を中央から撮った写真です。右手前にある大龕と大きな木魚は千駄木の養源寺さんがご寄進してくださったものです。左右奥の襖に、写経講師の齊藤加代子さんの般若心経を表装させていただきました。室中と内陣の間に、西陣織の水引と戸帳が掛けられる予定で、金襴の錦地が本堂をさらに荘厳にしてくれると思います。【右中】内陣の様子です。まだ仏具が揃っていませんが、中央にご本尊のお釈迦様、右に達磨大師、左にお地藏さんの木像を祀っております。内陣内部はほとんどが檜の無垢で作られており、無塗装で仕上げてありますが、次第にお香の煙などいぶされていくと思います。【左中】鴨居の上の漆塗り部分が竹の節欄間といわれるもので、欄間にはめ込まれているのが以前本堂前にそびえていた高野マキを板材にしたものです。節や木目が自然のままです。幅三間の広縁は開放感にあふれています。この広縁を設けたことで、お彼岸やお施餓鬼のようにお参りの多いときも安心です。【左下】本堂内の左奥から撮った写真です。奥に法鼓（ほっく）といわれる大太鼓が見えます。



本堂内は空調も完備してありますが、天気がよくてお日様が当たるときには暖房もいらないぐらいです。建具のサッシが二重であったり、断熱がきちんとしているからだと思います。夏は、ひさしが大きく出ているために直射日光が当たらず、涼しいのではないかと期待しております。畳表はイグサではなく、和紙を使っておりますので、新しい畳のイグサの香りはしませんが、カビが生えたりせずに体にもやさしく、耐久性にも富んでいるそうです。



ほとけさんの心シリーズ(その二)

「文殊菩薩」

「三人寄れば文殊の智慧」ということわざでも有名な文殊菩薩。平凡な者でも三人集まって考えれば、文殊菩薩のような智慧が生まれるといった意味につかわれることわざであることはいうまでもありません。ということは、文殊菩薩は智慧をつかさどる仏さんだということなのです。

□□□智慧のほとけさん

以前の本堂には、内陣中央に「釈迦三尊像」を奉安しておりました。釈迦三尊の真ん中には言うまでもなくお釈迦様で、その両側に脇侍仏として、左に文殊菩薩、右に普賢菩薩をお祀りし



ていました。その三尊の姿の意味するところは、お釈迦様の教えの根幹となる「慈悲」を普賢菩薩、「智慧」を文殊菩薩のお姿で現しています。智慧は、知恵とつながり、学問につながることから、受験シーズンともなれば日本三文殊といわれる奈良の安倍文殊院、切戸の文殊と言われる京都宮津の智慧寺、亀岡文殊と言われる山形の大聖寺は、ご利益を求める受験生でにぎわうそうです。しかしながら、試験に合格するとか、

格するとか、

学業成就といった知識や知恵と、仏教でいうところの智慧は別物です。さらに、知恵はいい言葉ですが、サル知恵、悪知恵、浅知恵のようにあまりいい言葉に使われない例が見られません。

□□□知識と智慧

では、智慧は何かを、知識と知恵比べ？してみましよう。

以前からよくお話していることですが、最近の幼稚園児は年長の時計を読むことができる子がたくさんいます。私が子どもの頃には、小学校に入ってから紙でできた模型の時計を使って時計の読み方を覚えた気がするのですが、この頃はなんでも早期教育と言われて、時計だけでなく、英語や漢



字や水泳など、ほかの子に遅れてはならじとせさせと習わせているようです。

さて、幼稚園児がアナログ時計を読めるので、教室にも子どもが読みやすいような時計を掛けて、先生たちが〇時〇分になったらお片づけを始めましょうとか、〇時〇分までにトイレを済ませてお部屋に戻りましょうとか声をかけます。園児たちは時計を見て、〇時〇分がわかります。これが「知識」です。この知識を持っていく子どもたちですから、先生に〇時〇分までにお片づけをしましょうというのは理解できます。言われたことを理解して、実際に〇時〇分までにおもちゃを片づけることができるというのが「智慧」です。知識によって理解するだけでなく、それを行動に移して、実際に行く働きがあってこそ、それを「智慧」といいます。

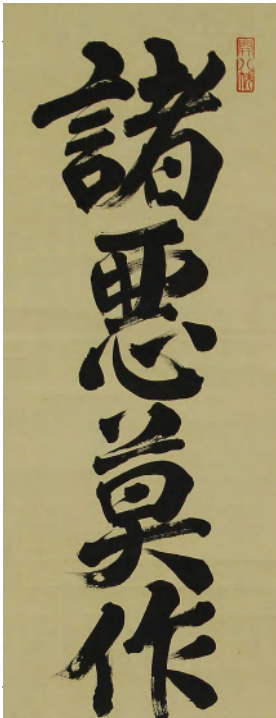
以前にもどこかでお話したような気がするのですが、中国の白居易と道林禅師の問答を思い出します。

白居易が杭州に左遷された時、その地に木の上で坐禅ばかりする道林禅師という変わった禅僧がいるというので訪ねてきました。そして禅師に、「仏教の一番大切な教えはなんでしょうか。」と尋ねました。すると、道林禅師が言うには、「もろもろの悪を行わず、善を行ふことじゃな。」と答えたそうです。白居易は左遷されたとはいえ、地方の長官ですから、おちよくられたとも思ったでしょう。か。「そんなことは三歳の子どもでも知っていますよ。」と、その答えを聞いて、

木の上で坐禅をするただの変わり者の坊さんかと……。すると、道林禅師が言いました。「確かに三歳の子どもでも知っていることだが、八十年生きた老人であっても、そのように生きることは難しいではないか。」と。それを聞いた白居易は、自らの至らなさを悟って禅師のもとを去ったのだそうです。まさに、知識と智慧を言い得た問答です。

□□□シヨ一ソ一さん

少々、智慧で引っかかってしまいました。文殊菩薩に話を戻しますと、圓福寺では、この文殊菩薩を本堂左奥におまつりいたしますが、修行道場では坐禅をする「禅堂」におまつりいたします。大学出たての右も左もわからない凡庸な修行僧が集まるから、「三人寄れば…」のこどわざにあやかろうと文殊菩薩をおまつりするわけではありま





せん。「禅堂」が禅の修行の中心となる坐禅をする場所であることから、智慧をつかさどる文殊菩薩を安置するわけです。

修行道場に入門を許され、はじめて禅堂に自分の居場所を与えられたとき、まず第一番目にこの文殊菩薩に礼拝をするように言われます。「『シヨ一ソ一』さんに三拝するのだぞ。」と先輩の修行僧に指導されるのですが、「シヨ一ソ一さん」って何者だろうと思いつ

つ、無事三拝を終えて禅堂に参堂する儀式が終わるのです。あとで、「シヨ一ソ一」さんって、「聖僧」と書くのだと知り、あの仏さんが修行をしていく自分の理想とするお坊さんなのだろうと勝手に思い込んでいた気がします。あとあと、聖僧さんが文殊菩薩の別名であることを知りますが、智慧に富んだということからすれば、自分の理想とするお坊さんだと思ったのもあながち間違いではなかったかもしれません。それは、文殊菩薩の像には、菩薩の姿をしたものだけでなく、「僧形（そうぎょう）文殊」というお坊さんの姿をした文殊菩薩もあるぐらいですから……。



□□□ 文殊菩薩の像容

□獅子に騎乗

僧形の文殊菩薩は別にして、

文殊菩薩の姿かたちの特徴は、まず第一番に「獅子」に乗っているということ。ちなみに、釈迦三尊のうち片方の脇侍仏である普賢菩薩は象に乗ったお姿をしています。文殊菩薩がなぜ獅子に乗っているかは諸説あつて、はっきりしておりませんが、知識だけでなく実践、実行を伴う智慧の仏さんですから、躍動感のある獅子がふさわしいと考えられたのかもしれない。象に乗る普賢菩薩の静のイメージに対し、獅子に乗って動のイメージの文殊菩薩ということで、お釈迦様の教えの静と動を表しているのかもしれない。





□寶劍を受持

次の特徴は、右手に「劍」を持っていて、ということ。それも、右手にまっすぐ立ててお持ちです。間違った考えを断ち切るといっているので劍をお持ちだと言われます。

坐禅というと、一般の人のイメージでは足が痛い、棒で叩かれると連想するようです。コマーシヤルで坐禅のシーンがあつたりすると、必ずと言っていいほど棒で叩かれる場面が使われたりします。

この棒のことを「警策」と書いて「けいさく」、曹洞宗では「きょうさく」といいます。居眠りしている人を叩き起こすための道具ではなく、文字通り、

警告・策励のために使われる仏具です。居眠りしそうになってくる人に警告



し、くじけそうになつていて人を励ますために、坐禅中に警策を持って堂内を巡るのです。とはいっても、一般の人にはこちらから警策を当てることはせず、合掌をして警策を当ててほしい意思表示をした人だけに限られます。

この警策は、文殊菩薩がお持ちの宝劍をお借りしたものだといわれ、神聖に扱われ、警策で叩かれることは、文殊菩薩の劍で叩かれ、間違った考えを断ち切って精進していく気持ちを持ち新たにしていこうという意味があります。

警策は檜の木やケヤキなどの固い木で作られ、しなるぐらい薄く削ります。この薄さと叩いた後に打ち戻す打ち方で、「パーン」という小気味いい音

がします。その音を聞くといかにも痛そうですが、「ポッコ」「ドスッ」という鈍い音は、叩く場所が違っていたり、打ち方がへたくそな証拠で痛みも後を引き、実は「パーン」という小気味いい音がした方が痛みは後を引かないのです。

火災によつて、圓福寺の警策の在庫もなくなつてしまいましたので、本堂建築の廃材のケヤキを利用して手作りしようと思つています。

圓福寺の木曜坐禅会は、これまで市原別院で続けてまいりましたが、年末より新本堂に戻つて、この文殊菩薩に見守つてもらいながら坐禅をしてまいります。場所も近くなりますし、警策でむやみに叩かれる恐れもありませんので、ご興味のある方はぜひお出かけ下さい。



その四 僧堂で何してる？ ——二二修行道場の生活

宗格和尚、雲水時代の剃髪思い出

僧堂に入門する以前に、人の頭を撫でまわしたこともなかったのに、僧堂で人の頭を剃る羽目になり、人の頭もいろいろあることを知りました。頭の形がいろいろであることは、坊主頭が当たり前だった子ども時代に見ていたのですが、頭の質といったらいいでしょうか。頭皮の下に脂肪でもあるのか、シリコンを触るように感じる頭、薄皮がピンと張ったような頭皮の頭、髪の毛が剛毛でカミソリで剃るたびにゾリゾリと音を立てる頭などなど。それぞれに合わせた剃り方があると気づいた時、お釈迦様の「応病与薬」の言葉を思い出しました。

【応病与薬】お釈迦様が、人に応じて教えを説いたことを例えたことば。



剃髪

四九日（四と九のつく日）にはまずまつききに剃髪だ。朝の独參後、単蒲団を單箱の上にかたづけて、隣同士で低頭合掌して互いに剃り合う。髪を剃る、煩惱を離れて妄想を断ち切るうとする固い意志表示の、およそこれほど厳肅な、明歴々とした手段方法が他にあるうか。釈尊は「貪・瞋・癡の心が起きたらば、まず自らの頭を摩づべし」と申された。そこで仏弟子の金看板たる坊主頭は、羅漢、南瓜、さい槌を問わず綿密な手入れが必要だ。ところが、日の浅い新到連中、この剃髪にはまだ忸怩たるものがある。生まれて初めて手にする剃刀、これを研ぐ術も、扱う手さばきもまったくおぼつかなくて、相手の頭には傷あとの絶え間なし。古參の中にはびっくりするような手荒さで、自身の頭をひとりて剃ってゆく至芸を見せる者もいるのだが。

「ハテ、この達磨さん、どうして鬚がないのだろう？」という古則がある。新到といえどもこの問題を解決するころには、誰もみんな立派な理容師の技が身につけているはずだ。

解 定

就 寢

いわゆる開被安枕の消灯時間。普通は九時半、大接心には十一時となる。解定（または開枕）の木板を助警が打つ。七、五、三のその響きは開静からたてつづけの厳しい日課の終幕を告げて、夜のしじまに印象的に流れてゆく。この時、直日は聖僧に一日安泰を謝して、献香三拝し、大衆は「尊勝陀羅尼」を誦する。そうして、一同三拝がすむやいなや、単蒲団を単箱上に片づけ、すばやく衣を脱いで袖だたみにして載せ、次に頭上の棚から夏冬兼用の一枚の大蒲団をおろしてカシワにし、着物ぐるみでもぐりこむ。坐蒲団が二つ折になって枕に変わり、アツという間に単ぶち（上り櫃）に坊主頭が並ぶ。「ド新到！」と一日中緊張させられてきた彼らには、これでけっこう憩いのねぐら。直日はやおら寝相を検分してやっと思策を収める。

堂内は真暗闇、聖僧の残香だけポツンと一点赤く、僧堂は寂として眠りに入った。しかし、雲水の苦悶はなおつづく。やがて夜坐のため、ほとんどの蒲団はもぬけの殻になってゆくはずである。



坐禅の単布団を片づけてカシワ布団に潜り込むまでの時間は、ものの数秒。まるで消防士が緊急出動するような素早さで、初めての時はなにごとか起こったのかと度肝を抜かれるものです。



いたずら坊主という言葉もいたずら好きがいて、「守夜」をする雲水を暗闇からおどかさのです。真言を唱えている途中、「おんばーっ、「うわっ」と聞こえたら、また誰かやられ

守 夜

夜 警

日没になって堂内には鈍い灯がつき、直日が入堂した。彼は助警に開板を打たせて聖僧に献香三拝を終わると、柝木二声を打つ。常住ではこれを合図に守夜のパトロールをはじめ、各寮廻り持ち当番で、腰上げ、玉だすきをとおり、大きな柝木を打ち鳴らしながら「おんばさんばえんていしゆやじんそわか」と守夜神の咒を唱え、常住から堂内へかけて境内を隈なく一巡する。

僧堂の火盗防災はとてもやかましい。日課には火徳諷経を怠らず、常住規則の冒頭に「火燭用心専要たり」と掲示をし、大黒柱に愛宕権現「火要専一」の護符を恭しく貼りつけて、火気を扱う常住では特別うるさいことだが、さらに日没と解定の二回、風雨を問わず毎夜守夜をして防災に努めねばならぬ。

堂内ではこのころからもっとも充実した夜の参禅に没頭してゆき、昼間の仕事を終えた居士たちも詰めかけて工夫三昧の時間が流れてゆく。

お寺の境内に街灯などあるはずもなく、漆黒の闇の夜もあり、そんな夜はいたずら坊主が出現しやすいのです。



三十七番岩本寺本堂前にて。

第五回

三巡目
四国あるき遍路の旅

平成三十年十一月十六日〜十八日

三巡目第五回の四国あるき遍路のメインのへんろ道は、土佐久礼から七子峠までの「そえみみず遍路道」。三巡目にしてはじめて歩くへんろ道でした。

千二百年ともいわれる四国遍路の歴史ですが、自然災害や橋の架け替え、道路の整備、廃仏毀釈といった政治的なことなどによって、へんろ道は変更を余儀なくされてきました。そのため、古道のままだったり、新旧の道があったり、ショートカットされた道に変わったりにしています。そんな中、今回の「そえみみず遍路道」は、かつて「土佐往還」と言われた主要道なのですが・・・。

今回も、旅の記録のダイジェスト版を掲載いたします。

旅の記録											
期日	曜日	コース				食事・宿泊					
1	11月16日	金	7:25発 羽田空港集合	JAL491	8:55着	9:40発【空港リムジンバス】	10:01着	【歩いた距離】13km			
			10:25発	【とぎでん交通】	11:02着	高知駅行	北はりまや橋	昼食：「黒潮うどん」			
			12:45着	高岡行	中島バス停	「黒潮うどん」	で昼食	約1.0km			
2	11月17日	土	13:30着	宇佐町の神社	途中、三陽荘に荷物を預けて、青龍寺へ。	36番青龍寺	約0.6km				
			15:50着	青龍寺納経所	約1.8km	「三陽荘」	宿泊：三陽荘				
			16:30着	窪川駅	約0.7km	37番岩本寺	約0.6km	土佐市宇佐町電504-1			
3	11月18日	日	8:00発	87番岩本寺	約1.8km	片坂峠	麓の「末川橋」	伊与嘉駅前	11:55発	【歩いた距離】約23.4km	
			12:30着	土佐佐賀町内	スーパーで昼食調達して各自昼食	13:43発	土佐くろしお鉄道	15:04着	高知駅	特急あしより6号	高知駅
			15:40発	【空港リムジンバス】	16:10着	高知龍馬空港	18:10発	ANA570	19:25着	羽田空港	【歩いた距離】約51.9km



「三陽荘」で一考

七年前の二巡目で宿泊した国民宿舎「土佐」。まるで地中海のホテルを思わせる景観の宿で、お風呂から眺める太平洋も素晴らしかったのですが、昨年末に閉館。おあつらえ向きに、青龍寺の手前に三陽荘という温泉旅館があり、今回はそのお遍路さんプランにすることにしました。

これまで、宿坊や遍路宿、公共の宿などにお世話になってきましたが、温泉旅館は初めてかもしれません。いくぶん気が引けるのですが、お遍路さんプランだからと後ろめたさを封印して泊まることにしました。

飛び込みのお遍路さんを断らないという宿坊や遍路宿の不文律が崩れつつある中、快く迎えていただきました。そして、温泉大浴場、食事の豪華さ、早朝出立の送迎バスなど、これでは宿坊や遍路宿から足が遠のくの



青龍寺の本堂前にて

も無理はないと考えさせられました。団体遍路の募集に当たるのが、きれいな宿、食事もおいしく、大浴場があつてしかも温泉という、その条件を満たしているではありませんか。でも、そもそもお遍路は世捨て人



浦ノ内湾の昭和レトロな巡航船

巡航船で行く

に近く、日に三軒の托鉢をしてその浄財で歩かせていただくというの、かつての歩く側の不文律。もはや、迎える側も歩く側にも、本来のお遍路さんのしきたりが見られないのだったら、四国遍路を世界遺産にしようなんておこがましい話だと思うのですが・・・。

二日目の遍路道は海上から始まりまゝ。朝七時五分発の船で進むのは地中海・・・ではなく浦ノ内湾です。空海が「青龍寺」を開創した時代に、このあたりは道がほとんど整備されず、

遍路道としても船を使うことが認められていたそうです。そこで、この巡航船に乗っていくのが本来の遍路道なのです。

六時半朝食、六時五十分三陽荘のバスが「埋立」の乗船場まで送ってくれなければわからないような船着き場でした。ほどなくしてやってきた船は、操舵室と客席が一つの船室になっている、屋根の低い船でした。どこことなく、昭和の面影を感じさせてくれます。



巡航船で一緒だった小学生。この日は参観日だそうです。

船は、浦ノ内湾の此岸彼岸を船着き場を歩き来しながら進みます。途中で乗ってきたのは、今日が参観日という小学生が三人だけでした。日曜日は運休日のこの船は、ス

クールバス代わりというわけですね。船で登校する女の子たちが物珍しいのか、遍路のおばさんがしきりに声をかけるので、子どもたちは少々困惑していたようです。うな気がするのですが・・・。

道道是好道

横浪の船着き場からの道は、鳥坂トンネルを抜ける平坦ルートと、仏坂を越し岩不動をお参りするルートがありますが、当然のことながら、私たちが選んだのは仏坂ルートでした。

舗装道路が次第に細くなり、だんだん薄暗くなるヒノキ林の中、道の左に岩不動への道標。それに従っていくと、石畳の上に湿った落ち葉が積もった急な



仏坂へんろ道の急な下り坂



下り坂で、足を滑らせてしまいそうでした。こんな危ない道だったら、鳥坂トンネルの平坦ルートにするんだったかなと思う頃には、岩不動のお堂の前に降り立つことができませんでした。情報化時代、ネットなどでもくらくらでも遍路道の情報を手に入れることはできますが、最後は実際に歩いてしかわかりませ

ん。失敗しても後悔しても、その道がベストルート、道道是好道です。

久礼で海鮮丼
 一一一 楽ありや苦もあるさ

多ノ郷から土佐久礼まで電車で移動して、今回メインの遍路道「そえみみず遍路道」を登る前に、久礼の「大正町市場」で海鮮どんぶりなどの昼食をいただくことにしました。アジもカツオも千葉とは一味ふた味違いました。こんなにいい思いをさ



土佐久礼の「大正町市場」

せてくれるという事は・・・、「楽ありや苦もあるさ。」みなさんお見通しだったと思います。

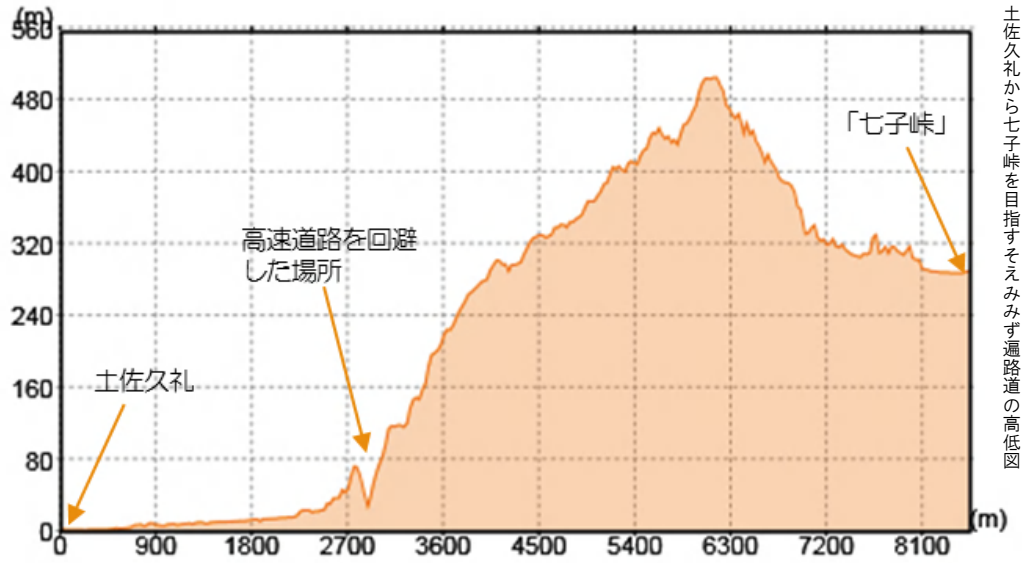
久礼の食堂のおばさん曰く、「そえみみずは高速が通ったからねえ。」という意味不明の言葉は、歩き始めてよ〜くわかりました。急な登り坂が高速に突き当たると、階段で高速の下まで下ろされます。高速をくぐって今度は先ほどの高さまで一気に登りなのです。高速ができたおかげで、車は楽になったでしょうが、歩き遍路たちには余計なアップダウンが付加されたわけです。

食堂のおばさんは、「高速が通ったから、そえみみずを歩く人は珍しい。」と言



高速道路を回り込む急な階段

いたかっただのかもしれない。いつまで車優先の道づくりをするのでしょうか。吊り橋なんて



土佐久礼から七子峠を目指すそえみみず遍路道の高低図



朝日を浴びながら、土佐佐賀を目指して出発

「歩歩是道場」

贅沢は言いませんから、せめて簡単な橋でもかけてくれたら優しいのに・・・。遍路道という遺産をずたずたにする日本の道路行政にっかり。

普通の遍路ツアーなら、一日に札所を何軒回るか、回れるかにこだわると思うのですが、私たちの歩き遍路はあくまで「歩くこと」に主眼があるので、たとえ一日中歩いて札所にお参りできなくとも、ひたすら歩くのです。と、いいわけとも、あきらめともつかない話はさておき、3日目は歩きに徹して、窪川の高原から土佐佐賀の海辺までを目

指すことにしました。田中さんの記録によれば、三・四 km の長い距離を歩いて、太平洋の大海原を見た感動を味わおうとしたのですが・・・。それでも目的の土佐佐賀まで歩きつくことができませんでした。仕方なく伊与喜駅で歩き終えて、タクシーで土佐佐賀まで移動しようと思ったら、最寄りのタクシー会社さんにそこまで迎えに行くのに五千円かかると言われる始末。思案に暮れる中、駅前のバス停の時刻表を見る



七子峠でお行儀よくパチリ



「ひやり路線バスの旅」でした。

と、十五分後に土佐佐賀行のバスがありそうです。でも、バスの標識は片側にしかありません。西川さんがバス会社に問い合わせると、確かにあるとのこと、反対側に立っていて、バスが来たら手を挙げてくださいと、親切に教えてもらいました。四十万交通のかわいいバスが見えると、全員で手を挙げて、このバスを逃してなるものかといった感じでした。それは、これまで二度もバスに置いて行かれた「ひやり」の経験があるからでしょう。

とはいえ、このバスだった一日三本しかない路線バスでしたから、あらゆる意味「ひやり路線バスの旅」でした。

【あとがき】3日間、天気にも恵まれてなによりでした。

温泉大浴場に入ることができたり、久礼の大正町市場でおいしい海鮮を口にしたり、今までにないような歩き遍路でした。その反面、そそめみず遍路道や土佐佐賀への遍路道など、予定より時間がかかった、歩き遍路ならではの長いみちのりもありました。海に面した土佐佐賀まで行ったら、またおいしい海のものをもとっていたのです。が、思い通りにならないのもまた歩き遍路です。

昔の歩き遍路は想定外の連続で、ご飯にありつけなかったり、泊まる場所がなかったり、雨で川が渡れなかったりしたと思います。そんな中で、おにぎりのお接待をいただいたり、飛び込みでも泊まらせてもらったりすること、自然に心底感謝する気持ちが出てきて、人としての成長があったでしょう。今回、伊与喜から乗ることができた路線バスにも、感謝する気持ちを持つことができ、少し成長したかなと思うのは、私だけでしょうか。



参加者募集

約20名

第6回

3 巡目 四国あるき遍路の旅

【日程】二月二十三日(金)
二十五日(日)

【旅程】飛行機にて高知へ。中村まで電車、バスに乗り換えて移動。「伊豆田へんろ道」で峠越え。海沿いの遍路宿に宿泊。

二日目は足摺の東海岸を歩いて足摺岬の三十八番金剛福寺、宿坊泊。

三日目は山中の真念遍路道を三十九番まで目指します。三日間で約三十五km歩く予定。

【参加費】五万円前後

【申込】お電話・メールなどで、お寺までお申込下さい。

その他、何なりとお問合せください。

第四回は、高知市およびその周辺の平地、二十八番から三十五番まで八か所の札所を、ひたすら歩きます。

第26回

ぜんどうかい
禅童会



いつ：平成30年7月22日(日)
どこで：市原市武士868
圓福寺市原別院「耕雲寺」

【感想文集まえがき】

酷暑真っ最中の七月二十二日、十二名の子どもたちが参加して、第二十六回目の圓福寺寺子屋「禅童会」が開催されました。

圓福寺の火災後に、市原別院耕雲寺で継続してきた禅童会も、平成三十一年には、元通り圓福寺に戻って開催できる予定なので、市原での一日禅童会もこれで最後となります。

全国的な酷暑で、熱中症になる人のニュースも伝えられる中でしたので、本来なら戸を開け放って、自然の空気の中で行う坐禅ですが、エアコンをつけた涼しい中で行わざるを得ませんでした。京都葵祭の花がさ巡行も暑さのために中止されたのは、葵祭始まって以来初めての事だったそうです。同じく伝統ある坐禅も、エアコンの中で行うことは許してもらえないだろうと思っています。

一泊二日での禅童会から一日だけの日帰り禅童会になって、坐禅の時間は四回から二回となり、食事も四回から一回になりました。また、子ども同士で入

るお風呂
や、書院の
大きな座敷
での雑魚
寝、怖
い話、枕投
げなどの貴重



な体験もなくなっていました。

そのせいか、足が痛くなる坐禅はあと何回あると指を折ったり、正座で食べなければいけない食事があと何回だとか心配することがなく、一日だとメリハリに欠けると感じています。つらい坐禅が何回もあって、それを克服した時に得られる達成感や慣れない作法慣れない正座での食事、二日目の昼食に自分たちで打ったうどんを食べるとき、一口食べて友だち同士見合わせる顔においしさがあふれていることなどからすると、やはり一泊二日という長い時間だからこそ、辛いこと楽しいことあるいは楽しく感じられること、痛いことおいしいことなど、メリハリがあつてこそ子どもたちは得るものが多いと思っています。

ただ、市原別院の豊かな自然のなかで、せみの声、鳥の声、虫の声を聴きながらの坐禅や、広い原っぱでのスイカ割りなどは、千葉ではできない貴重な体験でした。

「三度目の禅童会」

小中台小六年 今村 耀

ぼくはこれで三度目の禅童会なのできてあとも二回です。そして今回に残ったのが、この一個一個が最後と聞いた時でした。いつもやっていいることもその時していることはその時しかできないという事に気づきました。もう一つ心に残ったことがあります。それはいつもやっていることをやめてみると、いいつもは聞かない音が聞こえてきます。いつもは、急がしくて聞こえないような音でも動きを止めてみれば、虫の声、鳥の鳴き声、飛行機の音も聞こえてきます。ぼくはこのネイチャードでやった禅童会とても楽しかったです。来年と今年では、やる場所がちがうそうなのでとても楽しみにしていました。ぼくは毎年来ているので、あと二回だけでも禅童会に行きたいです。

「禅童会を通して」

思ったこと」

宮野木小五年 菅野 美羽

私は、七月二十二日にあった禅童会を通して感じたことがあります。

一つ目は、ざぜんの時に、和尚さんがクローラー消した時に、「西日本の人達はこんな暑い中、はなれてしまった家族を探したり、家を作ったりしているんだなあ。」と、思いました。

二つ目は、お昼ごはんを食べている時に、思ったことです。

私は、「食べ物が無い国もあるのに、私は食べ物を食べているんだから、幸せだと思いたい食べよう。」と、思いました。

三つ目は、自由時間の時に、にんじゃ屋しきに行って思ったことです。

「この世界のどこかの国とどこかの国



が戦っているから、家が無い人達がいるかもしれない。だから、早く戦争が終わって、その人々の家を作ってほしい。その人々達が安全にくらせる家を作ってほしい。ただただその人々がかいてきにくらしてほしいな。」と、思いながらにんじゃ屋しきにいました。

四つ目は、茶道をしている時に思ったことです。

「まっ茶は、おいしいと思う。だけど、もしかしたらまっ茶が大きらいな人がいっぱいいるかも。そしたら、その人々に『まっ茶は、苦みもあるけど、私はまっ茶の香りを楽しむためにあると思う。私は香りを楽しみ苦みをこらえて、味わうんだと思うよ。』と、言いまっ茶が好きの人をふやしたいな。」と、思いました。



(十月の「園だよりの」から)

「じゅげむ」はツール?

ナオミちゃん、と言っても、宮田ではなく、大坂なおみちゃんです。全米オープン優勝の快挙からマスコミに追いかけて、さぞお疲れのことと思います。とはいえ、マスコミのおかげで、可愛いしい日本語の受け答えを耳にすることができているのですが……。

大坂選手はラップを聞いて日本語を習得中だそうです。子どもたちはどんな日本語に触れながら言葉を身につけていくのでしょうか?成長に伴って、両親や家族のことばから、友だちのことば、女



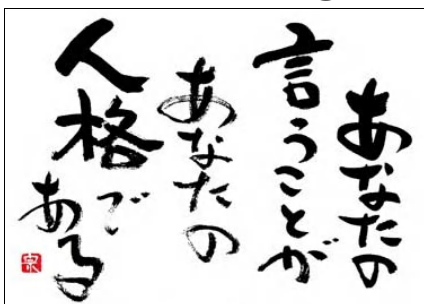
の子はJK言葉を使うようにもなるでしょうか?おじいちゃんおばあちゃんとお過ごした夏休みあけにはやさしい言葉を使ったり、田舎の方言を使ったりもするでしょう。子どもたちは取り巻く人と接する中で、「コミュニケーションツール」としてことばを獲得していきます。



ある辞典の編集者が「ことばは生きていて、どんどん変化していきます。そんな中、変な言葉だろうが、おかしい言葉だろうが、コミュニケーションが取れば言葉はその役割を果たしていくのです。」と話していました。

確かに、辞典を編集する立場からすれば、現実をそのままとらえてまとめるのが仕事ですから、それでいいのかもしれませんが、日本には「言霊」(ことだま)という言葉があつてサザンの歌にもなっています。言霊の考えは、良い言葉を使えば良いことが起こり、不吉な言葉を使えば悪いことが起こるといわれます。そんな日本だからこそ、美しい言葉とか正しい言葉という表現があるのだと思います。

言葉をツールとしてとらえるのか、大坂選手のように人柄を表すものと考えめるのかは自由ですが……。



平成三十一年年回表

回数	亡くなった年
一周忌	平成三十年
三回忌	平成二十九年
七回忌	平成二十五年
十三回忌	平成十九年
十七回忌	平成十五年
二十三回忌	平成九年
二十七回忌	平成五年
三十三回忌	昭和六十二年
五十回忌	昭和四十五年
百回忌	大正九年

法要の会場として、新本堂をお使いください。本堂は以前と同様に椅子席ですが、新しい書院も椅子・テーブル席にいたしましたので、法要後のお食事にも気軽にご利用ください。

写経会

般若心経を写経いたします。大きめな字でお手本が印刷された、とても書きやすい写経用紙を使用しています。お道具の準備から毛筆の基礎なども親切にご指導いたします。

【前期期日】

- 二月三日
- 三月十日
- 四月七日
- 五月十二日
- 六月二日

【後期期日】

- 六月三十日
- 八月四日
- 九月一日
- 十月六日
- 十一月十日

【時間】

午前十時～十二時

【会費】

一期五回で、花園会員三千円
会員外 五千円

【講師】

齊藤 加代子先生・住職

【用意するもの】

小筆、硯、墨、半紙

【定員】

二十名

【申込】

お寺までご連絡ください。



土曜会

この集まりは、圓福寺にご縁のある人が、各種体験などをしながら懇親・談笑する自由空間です。たくさんの方が広がります。

【期日】

- 一月二十日 花園会新年会
- 三月(未定) 春彼岸法話会
- 四月二十日 歩禅会(房州)
- 五月二十五日 市原ボランテラ
- 六月十五日 仏教シアター
- 七月二十二日 禅童会お手伝い
- 八月二十五日 地藏盆お手伝い
- 九月十四日 (未定)
- 十月二十七日 涅槃寄席
- 十一月九日 市原別院収穫祭
- 十二月二十一日 歳末ボランテラ

【会費】テーマイベントの後、懇親会

- 花園会員 男性 二千円
- 女性 千円
- 花園会員外 男性 三千円
- 女性 千円

【申込】

詳細は、行事ごとにご案内いたしますので、奮ってご参加ください。

平成三十年下半年
お寺と和尚の日録抄

7月	18日～19日	幼稚園、お泊り保育
	22日	第二十六回「禅童会」
	26日	スマートフォン「写経講座」
8月	3日	伽藍再建工事打ち合わせ
	4日	幼稚園、市原ボランティア「Q園隊」
	5日	写経会
	10日～16日	8月盆棚経
	15日	佐倉宝樹院施餓鬼会
	16日	佐倉円心寺施餓鬼会
	17日	四街道清久寺施餓鬼会
	18日	取手長禅寺施餓鬼会
	22日	伽藍再建工事打ち合わせ
	23日	スマートフォン「写経講座」
	24日	佐倉円通寺施餓鬼会
	25日	地藏盆
9月	1日	幼稚園、市原ボランティア「Q園隊」
	2日	写経会
	5日	伽藍再建工事打ち合わせ
	11日	千葉県学事課幼稚園検査指導
	19日	伽藍再建工事打ち合わせ
	20日	東京教区第七部部内研修会 於宝樹院
	6日	幼稚園運動会
10月	11日	スマートフォン「写経講座」

10月	12日	幼稚園、達磨忌
	14日	写経会
	19日	幼稚園、全園児「市原秋たんけん」
	22日～23日	博多聖福寺老大師拜請
	25日	スマートフォン「写経講座」
	26日	第四十四回花園会ゴルフ大会
	28日	涅槃精舎毎歳法要・布薩会
		土曜会、涅槃寄席 瀧川鯉昇師匠
		伽藍再建工事打ち合わせ
11月	1日	幼稚園、入園手続き
	10日	市原別院耕雲寺収穫祭
	11日	写経会
	16日～18日	三巡目第五回四国あるき遍路の旅
	21日	伽藍再建工事、完成検査
	22日	スマートフォン「写経講座」
	24日	新本堂での法要を始める
12月	1日	井戸掘り、電話工事
	3日～4日	月例役員会、役員研修 於新潟
	6日	スマートフォン「写経講座」
	8日～9日	幼稚園、「おさらい会」
	11日	幼稚園、成道会 於新本堂
	14日	幼稚園、もちつき
	20日	スマートフォン「写経講座」
	22日	土曜会、歳末ボランティア大掃除
	31日	年越しまいり

平成三十一年
年間行事予定

5月	4月	3月	2月	1月
21日 第四十六回 花園会ゴルフ大会	8日 降誕会(花まつり)	17日～23日 春彼岸 三巡目の第六回 四国あるき遍路の旅	24日 伽藍再建落慶法要 彼岸会法要 涅槃会 お釈迦様のお亡くなりになった日。涅槃図の掛け軸を掛けて法要をします。 二十四ページのご案内をご覧ください。	20日 花園会新年会 1日～3日 新年修正会 仏教興隆・国家安泰・五穀豊穣・檀信徒各家の繁栄などを祈禱する法要をしています。この修正会で祈禱した「般若札」は、寺報・カレンダーなどと一緒に、みなさまにお届けいたします。

10月	8月	7月
22日 第四十七回 花園会ゴルフ大会 禅宗初祖「達磨大師」の「命日」。	5日 達磨忌 24日 地藏盆 子どもたちの楽しいお盆の行事です。夜店や野点・ゲーム大会などで盛り上がる夜祭りです。併せて、地藏盆の法要で水子・ペット・人形供養も行います。	7日 山門大施餓鬼会 この日は、初盆のほけさまはじめ檀信徒各家のほけさまの施餓鬼会をいたします。あらかじめご案内を差し上げます。 11日～16日 七月盆の棚経 七月盆のお宅に棚経にお伺い致します。 20日～21日 圓福寺寺子屋「禅童会」 子どもたちの坐禅会です。坐禅だけでなく、楽しいゲームやいろいろな体験もできます。たくさんのお参加を待っています。 9日～16日 八月盆の棚経 八月盆のお宅に棚経にお伺い致します。



釈迦苦行像

12月	11月	10月
21日 歳末ボランテラ 花園会忘年会 お釈迦様がお悟りを開かれた日です。	8日 成道会 15日～17日 三巡目の第七回 四国あるき遍路の旅 9日 市原別院収穫祭	27日 土曜会「涅槃寄席」 27日 涅槃精舎毎歳法要 永代供養の方々の法要と、生前戒名のお授戒をする「布薩会」を併修。



——圓福寺では、毎年、和やかな楽しい新年会をしています。たくさんのお越しをお待ちしております。

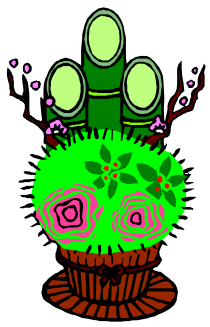
圓福寺とご縁のあるみなさんは、千葉という地域柄、全国各地のご出身の方がほとんどです。北は北海道、南は九州沖縄までという決まり文句の通りです。

石川啄木がふるさとの訛りを上野駅に聞きに行きましたが、圓福寺の新年会に来れば、全国のお国言葉を聞くこともできます。

どうぞ、お気軽にお寺の新年会にお出かけ下さい。



平成31年
西暦2019年
仏暦2562年



- 宮田宗格
- 河西達雄
- 福田和夫
- 平山 実
- 塩月高泰
- 菅野光夫
- 高橋敏勝
- 塚本勝身

圓福寺住職
圓福寺花園会

日時 一月二十日(日)
午前十一時 新春ご祈禱
正午 新年懇親会

場所 新書院

会費 三千元
(ご祈禱料、お守り、お膳・飲み物代を含みます。)
会費は当日受付です。

申込 電話・ファックス・メールなどで、お寺までご連絡下さい。